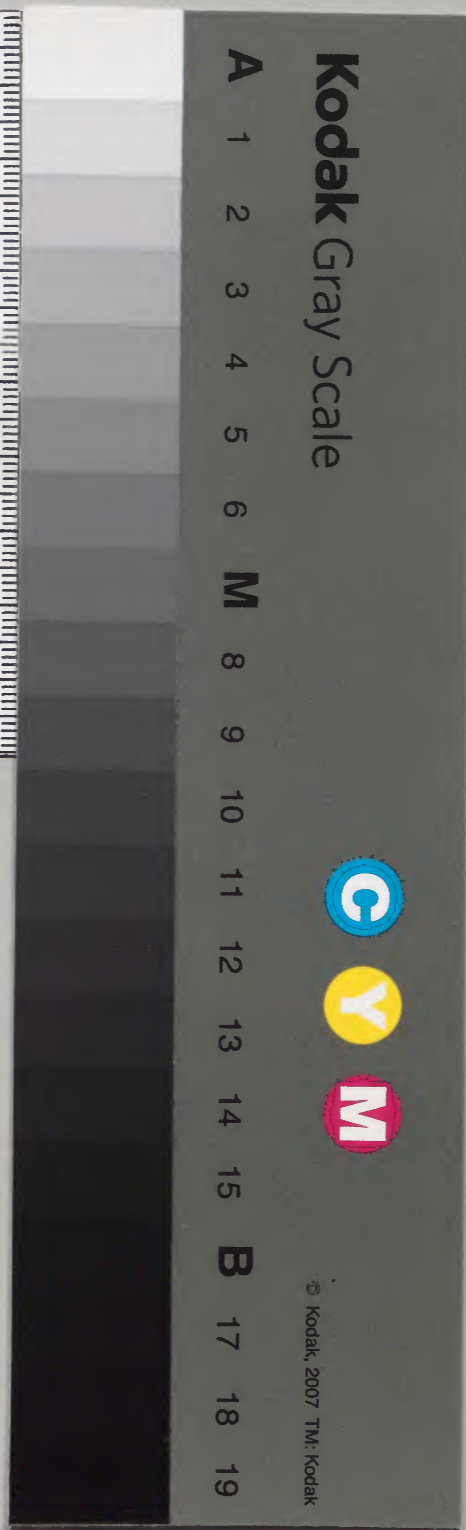


和書門			
二九三二五號	一七一函	一三五架	三五冊

內閣文庫			
和書	二九三二五號	一三五架	一三五冊

內閣文庫	
番號	和 29315
冊數	35 (11)
函號	175 172

地五七





福山志稿卷十一

邑里第一

内一〇二五條

福山 治ハ山陽道ニ屬シ南ハ海枝ニソト北ハ連

山ヲ負ヒ北東出地三十四度半東ノ方京ニ至ル

十里西赤馬関ヲ去ル事七十五里四時暖氣

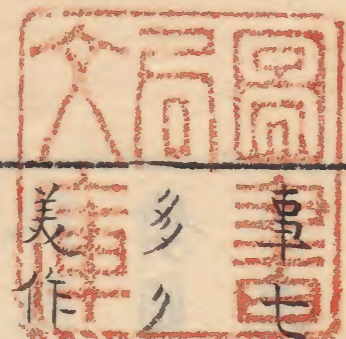
多ク霜雪少ナシ吉備國四部ニワカレ東ハ備前

美作中ハ備中西ハ備後ニシテ福山ノ管スル處

備後ノ東南隅ニアリ東ノ方備中ノ西境ヨリ西

ノ方本國水調郡ノ東境マテ七里餘南鞆津ノ海

濱ヨリ本國甲奴郡ノ南疆マテ十一里管内ノ大



川ノ葦田川ト云諸川多クコレニ合シテ海ニ入
ル山ハ北ノ山一帶備中安藝ニマタカサ武倍山
一帶山田山一帶東南ノ山備中ヨリ起リテ本庄
引野ニイタルモノ一帶野中ニ獨山モアリテ峯
嶺岡阜名目数ノルニイトマアラ子トエノ四山
ノ見孫支極ニ出ス田野ソノ中ニヒラケテ諸村
山谷ノ間ニ入リ或ハ汀洲ノ際ニ出テ五穀ヲ
ヒ諸植相應スコレ府治ノ大略也凡山川形勝人
民風俗政事沿革ヲヨヒ故跡人物物産等各部ニ
分ツテ前後ニ置ハ大抵一藩ニ係ルモノナリ三

備美作四國イマク分レサル前ト地方明ラカナ
ラサル車跡トハ亦ソノ中ニコレニルスコレ不
敏ヲ避ルナリ各郡各村ニトハルハ各其部アル
コト左ノコトシ
福山ハ備後國深津郡ノ西邊ニアリテ城ハ水野
侯日向守源勝成創築スル所ナリ侯元和五年ニ
和州郡山ヨリ備後神邊城ヲタマワリテ移リ城
北ニムカヒテヨロシカラス且シハク攻拔レシ
處ナレハトテ同年八月ニ福山ニ移リ今ノ城ノ
北邊天神山ニ假屋ヲ設ケテサテ塹濠柵櫓ヲ造

ラト經營元和六年ニハシマリ八年八月ニ終ル
ハシノ侯ミツカラ管内ノ巡見ニ城地ハ品治郡
ノ榑山沼隈郡ノ築島深津郡ノ常興寺山三處ノ
存イツレニテモ然ルハトオホシケルカ榑山
ハ海陸ノ通路アリトテ兩處ノ願ヒ玉フ築島
ハユルサレスレテ今ノ處ニサタマル寺ヲハ廢
シテ佛器ヲハ今ノ胎藏寺ニ入レヲサメソノア
トニ天守ヲ立玉フト云地名ハ水吞村ニ寶山ト
云地アルニ因テ福山ト改ラレ
和漢三才圖會福山東至江戸百九十四里半内六

十里自大坂海西至尾道五里至三原八里乾至三
次十七里坤至鞆三里北至加茂八里戌至安菟廣
島二十四里冬至伯耆米子三十六里艮至備中松
山十四里東至備前岡山十五里

今按ニ廣島ハ申酉ニアタルハシ
城郭

天守

附樽アリ天守棟札ニ于時元和戌八年吉祥日
敬白トアリ

六郡為ニ云京羽二重カ後編織為乃ニ子豊臣

秀吉公聚楽の塔を秀次公に譲りかへて後佐
久間河内守瀧川豊前守佐藤駿河守水野象之
助石尾貞右衛門等小倉して伏見山ノ城を築
せり慶長五年に城造てし乃ち始りしに
修補をなかりし天守ハ今備後福山城中ノ如
きところなりしと云云織為乃佐藤と後議
をとりけししてうきまらし見へりし伏見公伏
見たりし御殿ハ御殿壹ヶ處御風呂屋壹ヶ處
櫓三ヶ處多門壹間分追手門堀百八十間不
け等あり天守ハ椋七尺三寸周回あり下の重

角木椋ありし末口二尺五寸長三間二尺備後
國福山御天守御用木いつと書ありし書付あり
しより御殿より御風呂屋より御用木より
伏見公たてし御殿の御用木ありし

櫓九

内八ハ水野日向守勝成侯伏見ヨリ并願ノヨ

二十リ

虎口三

御館一

伏見御殿一

風呂屋一

右ニツモ同時伏見ヨリ辨領ノヨシ葵御紋ア

鐘樓一

右牙城

櫓九

虎口四

橋一

右羅城

櫓三

櫓臺一

虎口四

橋三

土橋一

水門一

御屋鋪一

宅舎五區

右月城

羅門二

右外郭

右ノ外審事廳事吏房解舎羅所舖司庫藏倉廩
作院船廠等及講堂書庫演武調馬之場月城内
外ニ散在スルモノ悉ク記サス

西町

東町

右二區藩臣ノ宅舎ヲ置街巷アマタアリテ或
ハ名アリアルヒハ名ナシ又小石梁敷処アリ
今盡ク記セス大抵ノハタハリ市井ニ三倍ス

大星市井

神島町上市

長百四十九間余

戸六十三

口二百三十七

神島町中市

長百二十八間余

戸六十二

口百六十三

神島町下市

長二百二十六間余

戸九十二

口二百八十

解三

六郡志云神島町三町ハ沼隈郡神島村ニあり
為城築能ハ後付所ニ引セシ以テ跡を古神島

よりふけ三町ふて置表を南ふ但所少て夢事
をゆふさけ

船町

長二百二間余戸百十六口三百六十四

笠岡町

長二百八十一間余戸百九十七口四百八

十四

今町

長百二十七間余戸七十口百七十一

大黒町

長百五十間余戸六十七口百四十二

胡町

長二百八十三間余戸九十口三百六十三

本町

長二百四十二間余戸百九十九口五百三

十八

上府中町

長百三十一間余戸五十五口百八十一

下府中町

長百二十六間余戸四十三口百六十二

鍛冶屋町

長百七十八間余 戸五十一 口百七十

下魚屋町

南総藤原郡國吉近代村同國定下三福津三三所所在今三三

長百九十二間余 戸七十五 口二百七十一

深津町

長百七十一間余 戸四十八 口百六十一

桶屋町

長百六十四間余 戸六十七 口百七十六

上魚屋町

長百三十一間余 戸八十五 口二百六十一

昔ハ舟壕中ニ入テ此町ノ西首ニテ魚ヲサヤ
ス水野家ノ中頃ソノ聲喧シトテ入口ヲ築切
ラセ玉フ今ソノ所ヲツキキリト云大手ノ東

上米屋町

長百二間余 戸五十一 口百四十五

中米屋町

長百十二間余 戸六十三 口百二十二

下米屋町

長百十四間余 戸四十一 口百一

六郎志子米屋町三町志水磯家み時米屋とい
下不穀物斗賣買ししりしり名はくと云

新町 長二百五十三間余 戸百四十三 口四百九

中長二百五十三間余 戸百四十三 口四百九

上六郎志子むかーハ下新町とりふ

福徳町

長百九十七間余 戸百五十三 口三百九十

四 六郎志云むかーハ上新町と云松平忠雅侯の

時今の名子改む

藺町

長百十七間余 戸六十五 口二百十六

六郎志子浪隈郡多し藺と賣買しりる名はく

中町

長百三十一間余 戸八十二 口二百十六

奈良屋町

長八十八間余 戸五十一 口百十二

六郎志子水磯家新島山今里系良源とい

るとの兄弟三人有まゝ此付處も恒しりる

名はく多良屋敷茶屋一と後小隅屋とあり

醫者町

長九十七間余 戸五十二 口百六十八

大工町

長七十二間余 戸五十八 口百六十六

吉津町

長二百八十八間余 戸百四十四 口四百九

十三

古吉津町

長二百五十二間余 戸百七十五 口四百六

十

長者町

長二百一間余 戸七十二 口百九十二

城西定福寺ノ西ニアリ

道三町

長三百三十二間余 戸百六十三 口四百十

三 御茶屋アリ

町通計三十

諸巷異名

風呂屋町

云々郡志に新町とある道をりふ享保の頃迄
風呂屋多くありり今ハ水一又水道の好
りありあり、處石の井側ありて用ありり是
大ニと風を極川とりり元禄年中ハ水車あり
是里より水勢弱して車轉セ今ハ水一と
云

最善寺町

同書に本橋より南とある町と云寛永の頃
寺ありて寺付處とありて東向の寺ありと云
宮ノ小跡

同書に云新藤より南とある道と云り
草戸村より西之院付町とありて徳守の稲
倉付處とありり今草戸村の稲倉
とありり
人打場
同書に云船所中番所のある所と云り
三町より田井森に赴つて科人と拷問
ありりありり松平忠房侯の時迄ハ元の如
くありり

通町

同書に云

笠岡町今町大黒町胡町コレヲ通町ト云

柵町

本町道具藏へ出北道ヲ云

三島屋小屋

戸二十口入十一

六郡志に舟入口者胡の東と云

三島屋と云

多くは家をけ處に依りて三島屋と云

云け漢人等と云

うりて賣代家と云

柿屋町

下魚屋町ノ頭ヲ云

中仕町

中番所ノ前へ出北横巷ヲ云

下臺

安樂寺門脇ヲ云水野家ノ時中間ノ焚出し

夕ル下臺ノ跡ナリ

片平町

大工町ノ北側ヲ云

六郡志に松平忠勝侯の御菩提寺天徳寺と

いふ寺ありりるる勢別来名へ引きりる跡
一 戸地あり今藩臣の宅舎とせり西の方戸地
と来田檢校よありりる檢校屋鋪といふ
勢溜

胡町惣門ノ内ヲ云

大抵濱川ヲ中トシ上市中市下市奈良屋町新
町藺町醫者町福德町中町大工町舟町南側川
南ニアリ内三市ヲ神島ト云笠岡町今町大黒
町胡町桶屋町上真屋町下真屋町本町鍛冶屋
町上中下米屋町上下府中町深津町船町北側

川北惣門内ニアリ西吉津長者道三ノアハセ
テスヘテ三十町コレ商賈ノ居也

泥町

上魚屋町ヨリ東堀ハタへ出ル町ヲ云

唐大町

吉津町胎藏寺ノ前ヲ云水野家ノ井大大ヲ
此ニ飼オケレシ所ニ大打場ト云所コノ東
二三町ノ野中ニアリ故ヲシラス或云大追
物ナントセシ所ニヤ

戸口惣計

戸二千七百十二

口七千九百

内女三千九百五十二僧百二十磬十五

畜

牛二馬十五

凡戸口藩臣ハコノ内ニアラス藩臣畜フル所
ノ馬モ亦数ニ入レス

溝渠

濱川

船町ニアリ港ナリモト壕ニ通ス今ソノ間ヲ

堤ニ隔テ閘開モテ壕水ヲモラス東端ニ官船

ノ舟入場アリ船方ノ諸吏及水手ノ家繞リ住ス

瓶川

上ハ城北蓮池ヨリ吉津町ノ南ヲ流シ三吉村

ヲ繞リ手城村ノ流ル即外壕ナリ蓮池モト溜

池ト云壕ノ上流ニテ水ヲ畜ル所ナリ本庄木

庄ニ接ス相傳ヘテ水野家ノ末年深津座床ヨ

リ舟ヲ入レテ吉津ニ來ラレメント議定アリ

シカモ程ナク國除カレテヤムト云

大佛川

大上ハ同所ヨリ吉津町ニ入リ深津村ノ流孔
橋約

本橋

船町ニアリ欄干葱寶珠アリ

六郡志云尊送刑人者むりりさく俗子多下橋

又送橋とりふ

新橋

因書云刑人さくさくハけ橋とて俗

子下橋とりふ

船町ニアリ本橋ハ西此橋ハ東也北端ニ申明

亭アリ

土橋

吉津町ニアリ惣門ノ北ニ架ス

六郡志云水邊家の時長十七間ノ七橋水うし

う松平忠隆侯の時板橋より水う橋干ありたり

此より川埋込橋を困ひにぬれ近年石橋と水

り石橋あり

石橋四

一ハ胡町天神下溝川ニアリ一ハ本町ニアリ

一ハ吉津町大佛川ニアリ一ハ同上流胎藏寺

ノ下ニアリ

圮

胎藏寺西ノ下ニアリ

舟舩

商舩二十九艘

漁舩二十六艘

官舩八艘ニ入レス

廟墓

八幡宮

若宮八幡宮ト云マ夕西宮ト稱ス城北吉津木

之庄西村ノ界ニアリモト野上ニアリジヲ秋

原盛重今ノ天神社ノ慶ニ造營シ宗休公古宮

ニウツシ勝慶侯マ、ニウツサル兩社同ク天

和三年癸亥ノ八月ニ成就ス兩社ナラヒテ此

宮右ニアルユ、西ノ宮ト稱ス祭禮ハ明和六

年巳冬ヨリ此ヲ八月十七日トシ東ヲ八月十

三日トス西ハ藩臣及野上多治米ノ生土神東

八町家ノ氏神トス西ノ行廟ハ野上古宮ナリ

凡祭神八幡ハ應神天皇天神ハ菅丞相任

吉ハ三筒男ノ如キハニルサス下ニナリ

横欄葱寶珠銘

恭惟神明 體天示象 宇宙蒼生 君臨子養
 遠夷肅々 王道蕩々 和光同塵 隨處崇仰
 至誠通神 何漏盟網 伏以舊規 壻境不敵
 庶富歲加 民屋近疆 於城之良 山地潔爽
 秀翠杳靄 彌望曠遠 欽願遷坐 永鎮封壤
 齊戒拈闍 岳應如響 迺擇良辰 爰芟棘莽
 松韻珊珊 水聲瀼々 群心躍喜 衆工阜強
 式遵定例 柱太板廣 檜材丹飾 雕刻剡硤

神宮有恤 朝輝映榜 此日此時 氣晴天朗
 敬奉尊幣 袞解拜類 仰祈昭鑒 自今以往
 國家安全 世運增長 繼嗣聯綿 士庶豐穰
 直欄横檻 固蒂深礫 祗陳頌銘 尚神之饗

天和三歲次癸亥八月吉日

頌主從五位 水野美作守源勝慶

鳥居顛 近衛左大臣基熙公筆

奉幣一筥 勸修寺大納言奉納

五十鈴 水野美作守勝慶同

寶劔 銘備後福山任助高 緣頭日貫後藤兼貞 同

鏡 田中伊賀様

三十六歌僊 画土作 書冷泉大納言

湯釜 宗休侯同

金燈籠一對 同

石燈籠二對 同

金燈籠二對 勝慶侯同

以上社家由緒書ヲ略擧ス凡祠廟寺院事

跡長キモノハ省キテノセス下コレニナ

境中小社

神明宮

聰敏大明神

兩社八幡宮ノ間ニアリ祭神當城開創水野

日向守源勝成侯祭禮毎年三月二十五日ナ

リ初ハ三月十五日ナリシカ中頃ヨリ今ノ

日ニ定マル侯ノ事蹟總叙ニミユ

小祠三

八幡宮

延廣八幡宮ト稱スマシ東ノ宮ト云此亦枚原

野上ヨリ榎木谷ト云處ヘウツシ

ト云寫文ノ水野
家ノ助勤ニ
アリノヒキヤ
忌テ今ノ名ト云

ニ社共ニ復地ナリ
地城

ニカハルユ、今ノ宮ノ小跡、ウツサレ...

ニ轉シ又コ、ニ未行廟新町ニアリ阿利ウシヲ神トアカムトモ云...

葱寶珠銘 西ニ同シ

鳥居額 同

奉幣 勸修寺尹隆

五十鈴 西ニ同シ

寶劍 同

三十六歌仙 画上ニ同 書風早大紙言 同

金燈籠一對 同

石燈籠二對 同

金燈籠二對 同

境中小社

小祠二

中ニ岳加靈社アリ相傳、水野家人佐藤五

郎左衛門東宮神主池田土佐等議ノ勸請ス

天和中ナリ儒林姓名録ニ山崎闇齋名嘉字

敬義一号岳加、稱嘉右衛門、播人居洛、初為僧、

後歸儒、游事會津神侯、所著有洪範全書、孝經

外傳、蒙養啓発集、程書鈔畧、朱書鈔畧、朱易行

義、朱子輯要、文會筆録、大家商量集、經名考、

朝改元考、垂加文集、等マ夕日本人物志ニ云
名ハ嘉字敬義闇齋ト号ス俗稱嘉右衛門其
先播州兵栗郎山崎人京師ニ移任ス敬義幼
ニシテ狡悍無頼ナリ父ウトニシテ妙心寺
ニ學ハシム絶藏主ト号ス嘗テ佛堂ニアツ
テ者經ス獨立テ大ニ笑フ師駭テ汝何ヲカ
笑ト問嗚呼釋迦許大ノ虚誕ヲ説ル故ト答
フ長スルニ及テ四方ニ遊ヒ土州吸江寺ニ
客シリシトキ時中翁ノ儒經ヲ講スルヲ聞
テ遂ニ兼山三省ニ就テ學ヒ珠子ヲ擲テ儒

ニ歸シ關異ヲ著ス土州ノ大守關異ヲ讀ニ
其浮屠ヲ詆ルコト甚シキヲ以テ大ニ闇
齋ヲ憎ム闇齋風ニキ、ノカレ帰ル云云
西宮ニモ松岡渾成ニ山崎ノ稱号ヲ書セシ
ノ津川藤介馬屋原玄益ナト會シマツリシ
トアリ今ハ會スル人ナシト云渾成亦仲良
ト云後ニミユ
良大明神秋津良明神ト云
吉津觀音寺ノ西ニアリ祭神二座伊奘諾尊素
盞鳴尊ナリ祭禮毎年九月九日棟札ニ天和

辛亥九月造立トアリ吉津町胡町大異町及東
町ノ藩臣三吉村等ノ生土神トス

六郡志子水蛇騰程公子四人早世何ノ第五子
と尚社の子として社は成子代と名つけらる
為社の政三栢也中國太子祀の社は高の月原
尺三栢乃飯と旗ニつけらるる之の由りハ
むゝし社は成子の人達立せしやと云

天神宮

城北松山ニアリ祭禮隔年六月二十五日ナリ
宗休侯菊屋ニヲハセシトキヨリ身ヲハナサ

ス信仰アリシヲ開城ノ後慶安元年コトニ安
置ニテ一社トセラレ

鳥居類 克然親王筆

書福山府菅公祠八景扁額後 伊藤長英

菅公自妙齡、草薙特達、有芝蘭玉樹之譽、十一歲
六時、賦寒夜詩云、月輝如暗雪、梅花似照星、可憐
金鏡轉庭上、玉房馨、及其壯大也、又追六朝之風、
詩摸元白之格、博洽獨步一時、罹罔極之禍、謫大
宰師、臨終自盟曰、死而若有靈、解羅諤者之禍也、
千歲之下、為雪寃之神、且為文章至盟、上自公卿、

大夫下至馬卒輿臺不問有祈與無祈尊崇欽仰
日隆月盛況於其習字讀書憂談畏寬人之水精
造初解雪字雖幼見穉女而見泥塑木偶之束帶
執笏則以為公之肖像安之架上每逢月忌薦酒
菓供香火也傳聞公愛梅之甚人或誤嚙破核子
則垂涕泣之事必不為嚙破核子雖幼見穉女之
蠢而其尊崇欽仰之厚與召伯去後民庶之愛及
耳棠相符矣福山府城北有一小丘名小丸山中
有叢祠是公之行祠也有僧尸之頃同志四輩做
瀟湘八景製治下勝概之八題各賦二絕扁揭祠

前屬予淨書目跋一語云

護穀大明神

新町ニアリ寶曆七年丁丑草創每年三月九月
十三日ヨリ十五日ニテ祭禮アリ管外ヲ六部
ニ分チ二部ツ、三日ノ間ニ詣ス或云祭神ハ
所謂稷ノ神ナル、

住吉大明神猿田彦大神

二座合殿 一社

新町ニアリ住吉祭禮每年六月二十九日猿田
彦ハ庚申ノ日奈ル東入幡宮ノ御旅所ナリ外
護王一社

小祠十九

塔寺

定福寺

無量山浄土宗知恩院末寺開山圓誓上人證阿
祖應和尚藩府ノ香火院ナリ西町ニアリ

方丈彌陀佛像 慈覺大師作

六字名跡板 圓光大師筆

六郡志ノ二物有無後家才大天流也之流
宣氏家子にトシテ寄附之宣氏之祖也
凡由元院藏田内府の流也之山門改め

か小道もて老傍こりニ物成りしにたを
始りたるふふ傍川く佛ハ流る上人
ねし多し像板ハ上人自筆なり我死は人
志すぬよめふりて棄てて人未だいな
小舟也小舟つりしとちたしへらる魚きや
吾と云え流りしけしハ傍り流りてマ
て死ししを我と云宣氏とて七代まで
小舟つりしと云
凡寺院作佛什物此類イツカクニモ多し然氏
由緒未歴ナキハノセス餘コレニナラ

墳墓

香源院殿哲譽榮壽大師師

正保年中前水野作州侯母

夏光院生屋童子

元和年中水野左馬之助

玉山妙壽

慶安年中萬壽

良樹院殿珊譽昌榮大姉

寬永二十一年南呂八日水野家、毒女三

伊藤梅宇先生墓

延享二年乙丑男輝祖建之墓銘在ノコトシ
古學先生之仲子曰梅宇先生、余師東涯先生之
次也、先師嘗為小子言、有仲第官于備之福山、以
家學教授、州士大夫多嚮學焉、享保己亥韓國使
來聘、與接伴事、成書記者、投書乞遺書、贈以童子
問云、余久欽高義、風帆百里、時修書耳、壬戌余為
校書入京、邂逅古義堂、連榻月餘矣、先生為人、魁
梧健談、寬厚接人、文淵韓歐、詩祖李杜、常愛陸務
觀集、講習不倦、經史自娛、命其齋曰相遺窩、其所
蓄、蓋可知也、延享乙丑十月八日卒于福山、距

生貞享甲子壽六十三、三弟皆官于侯國、今嗣輝
祖嘗與余同塾、故以狀索銘於余、不文何辭、按狀
先生賴崎氏出也、姓伊藤、名長英、字十藏、号梅宇、
康獻私諡也、嘗仕防之德山、亡後退居于洛、享保
戊戌官于福山、著文集十卷、志林二卷、談叢七卷、
配佐野氏、六男一女、長即輝祖、次長鵬、次長富、餘
夭、女尚幼、墓在城西定福寺、銘曰、

紹志述事、不墜家聲、博約之教、善誘

后世、斯伐貞珉、不朽者名、

勢州津府記室、奧田士亭撰

男

輝祖

霞臺先生墓

青雲不達、黃泉期逼、命之靡常、將若之何、自省天
之所棄、復曷煩墓文為、

明月秋風各一時、夜臺寂寞與誰期、百年事業青
雲盡、併尽平生抱璞悲、
享保甲辰生、寶曆癸酉卒、行年三十歲、

伊藤輝祖自書

吾同祖兄、稱大佐、夙負才氣、嘆無為於世、不永其
壽、將沒、自作詩代墓文、配山岡氏無子、以弟懷祖

襲祿懷祖亦沒其子弘亨承遺囑將以詩刻石曰從
其志不錄世系履歷唯寬延三韓聘使泊鞆津接
談之日書記海臯乞古學先生遺書為典論孟古
義中庸發揮大學定本及古學指要製述官矩軒
姓朴名敬
行字仁則書肖齋二字贈之以遺書播海外吾叔
氏之力不可不傳也予答之日固然矣為錄其碑
陰云

寬政甲寅二月

伊藤善韶撰

姪 弘亨 建

蘭晚先生墓

君諱懷祖字修佐別號蘭晚姓伊藤氏考吾仲父
梅字先生而其第三子也妣可貞孺人佐野氏仕
于備之福山阿部氏世儒職享保十二年丁未七
月廿九日生年已長未京師遂往東都寓叔父竹
里先生之家教年家兄大佐氏死無子以君為嗣
克傳祖先之家學講授不急多年矣天明八年戊
申八月晦日終元配川崎氏次配深町氏子男二
人長曰弘亨襲祿次日弘訓嗣石谷氏女三人長
適小曾戶某次適川合道山季女適大野某享年
六十有二葬于城西定福寺先塋之側私謚曰彰

常弘亨使予銘其幽堂因系以銘云

學兮殖業兮守父兄美何為負

寛政六年甲寅二月

從弟伊藤善韶撰

弘亨建

大念寺

見佛山同泉同末寺町ニアリ開山大誓上人濟

生龍天和尚當城成就之後神邊萬念寺ヲ引テ

建ツ大閣秀吉公朝鮮征伐歸陣ノ日萬念寺ニ

休ミ夕マヒ手ツカエ画ニ幅ヲ賜フ今此寺ハ

什物トス呂紀カ筆ナリト云別ニ圖アリコノ

寺ノ總門ハ神邊城門ノ一ナリ水野家ヨリ夕

ニハル

洞林寺

龍雲山同泉同末開山住誓上人寺町ニアリ由

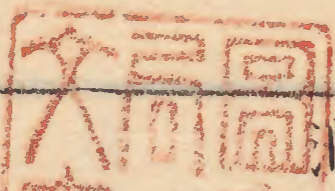
緒書ニ當城以來アリキタリト云ノミナレハ

イツクヨリイツノ頃ウツセシトモレハ

墳墓

青春院殿心誓花月榮光大姉

水野勝種侯祖母氏不詳



月窓院殿大誓雲清性覺大姉

水野勝種侯實母能勢氏

安樂寺

正覺山淨土宗鞞阿彌陀寺末寺近知恩院末寺

トナレ閑山重誓上人也ハレメ神島村ニアリ

槇島兵庫建立ス當城成就ノ後引テ建之云蘭

町ニアリ

一心寺

圓界山同宗知恩院末寺寺町ニアリ閑山圓誓

上人證阿祖應和尚

胎藏寺

松熊山真言宗京大覺寺末寺小本寺草戸村明

王院也吉津ニアリ閑山真勢法印也ト即即殿アリテ慶長申神邊神邊西福寺

小水野家初テ神邊入城ノ時三舊ノ如ク祈禱寺ナリ當

城ハ見門ニ此寺ヲヒキ建ラレ城地ニ在レ常

興寺ノ釋迦ヲ本尊トス常興寺ハ二條院御建

立ノ寺ニテ伽藍寺ナリシカ乱世ニ廢也衰シ

ナリテ残リシモノハ施餓鬼ノ位牌ト釋迦ノ

位牌左ニ記ス熊地ノ名常興寺ノ山号ナリテ此寺ニ移テ用之

福原常興寺三牌貞治戊申正月吉禪惠處之

観音寺

南壽山同宗同末吉津ニアリ開山省表法印縁起ニ草戸ヨリウツシ来ルトニ工深津長尾寺ノ縁起ニハカシコヨリウツルト云

能満寺

妙知山同宗同末開山シラス西町ニアリ真觀ト云僧住持セシトキ枚原又太郎弟又次郎コトニ高シ足利尊氏ニ隨テ多々良ノ戦ニ高名ニ御調郎木梨庄ヲ給ハルソノ時此寺ヨリ打立寺ニ有合シ白布ヲ以手繩トスソレヨリ枚

原氏ハ白鬻ヲモテキタル又先祖貞盛将門ヲ誅スルトトキ御劍ヲタマハリシニヨリテ巴ノ紋ニ劔ヲ加フコノ寺モ又ソノ紋ヲ用ユ真歎ハ二人カ叔父ナリシヨシ縁起ニニユ

今按ニ多々良ノ戦ニ枚原カ出シ車太平記末等ニハ見エス将門追討使ハ藤原忠文ニテ貞盛ハ関東ニアリテ戦ヒシナレハ節カナト給ヒシハイカ、此類ニナ疑ヲ存ス外ニナコレニナラハ

松山寺

山同宗同末開山シラス西町ニアリ真觀ト云僧住持セシトキ枚原又太郎弟又次郎コトニ高シ足利尊氏ニ隨テ多々良ノ戦ニ高名ニ御調郎木梨庄ヲ給ハルソノ時此寺ヨリ打立寺ニ有合シ白布ヲ以手繩トスソレヨリ枚

梅香山同泉同末松山天神社地ニアリ神事ニ
供ス

賢忠寺

南陽山禪宗開山能山藝禪師三列所屋榜嚴寺
末寺水野家ノ香火院ナリ寺町ニアリ

墳墓

賢忠大居士

慶長五年夷則十九日水野和泉守重忠

德勝院殿前四品日州大守參庫宗久大居士

孝子源氏水野勝俊敬白于時慶安四年辛卯

三月十五日

當城開基水野日向守勝成公

自光院殿前雲州大守

慶安五年水野出雲守成貞

悟真院光淵了珠大童子

前後之十六郡志ノ載スルトコロヲウツレ

テ文字多キハ階スエノ墓俗稱ナシ

源光院殿傑山泉英大居士

施主水野氏部于時寛文二壬寅歲十月廿九

日

當城三代城主從五位下水野日向守勝貞

殉死安田孫之進重次塔附

萬輝院忠岳全功大居士

元禄十年丁丑秋八月念三日孝子水野松六

丞營建之

當城四代城主從五位下水野美作守勝種

六郎志子け寺とと護國山とりふ外門の額

葉乃高永り奉ふて奉とり護乃字藪とて

洋の字にわたる人ふれ海にありて記すなり

凶事遂りしとりひしあふれ記すなり死

七うち供くきて遂に割るるふとる後小今

の山号ふありしむ為陽山八月舟系記の聯

ハの字なりと云中山の字なり

寄附

具足六領

槍 四本

短刀 二口

此外品多ケレハ略ス

塔中

海月庵

藏書軒

知多軒

三卷アリ今海月ノミノコル

泉龍寺

大淵山禪泉開基快應龍喜禪師參州西明寺末
寺西町ニアリ水野家ニ隨テ郡山ニウツシ又
マ、ニ末ル瑞源院殿ノ位牌ヲ齎来リ神邊龍
泉寺ヲ宿坊トシ當城成就ノノチニテ香火院
タリ賢忠寺建立アリテ香火院ト定メラレテ
後水野家ノ長臣中山將監建立ノ願主トナリ
テ此地ニ移ス上棟ノ文中ニ運券於寛永七年
庚午之秋翌辛未之夏諸堂成就スト云快應鐘

ノ銘ニ快翁ニツクル

聯

絲拈並叶則梵刹圓成百萬人天皆慶喜
不撥微塵而佛身自現億千龍象悉瞻依
支那沙門高泉持題印アリ

寄附

古曹 多田滿仲舊物

水野家臣田井俊高カ家ノ重器也此外種々
寄附セシヲ幾世ノ任持カ價アルハ皆賣却
ス此曹ノミ美麗ナラサリニ故殘ルト云

龍興寺

慈雲山禪宗備中國西江原村法泉寺末寺開山
祖堂意和尚吉津ニアリ此寺モト神邊ニアリ
福島正則ノ臣福島丹波ク香火院ナリ當城成
就ノ後此處ニ移ス其跡今ノ龍泉寺コレ也

位牌

永徳開基寂室光大和尚
寂室和尚行状ニ寂室ハシメ龍光庵ヲタテ
神ノ子ニソノ基ヲヒロメニ^{威鳳山}永徳寺トストミ
ユコノ寺ヲ弘泉寺ニウツシ木ノ庄ヲ龍光

寺ニウツスト云ハソノ門堂佛具ナトナリ
カキトリシナルレサナクハ開祖ノ位牌
ヲコハニノユスツカラス
今按ニ齋江コハニテ結制シ講席ヲヒラキ
シトキ衆寮諸堂ミナ水野家ヨリタテラレ
タルハ今ノコレル松林ノミナカアラケル
昔ノ總叙辨説及吉津村ノ條ニ詳ク
今郡志ノ東ノ宅ノミナカ寺ありりニ永
徳一寺ノ境内なりと云

三村家位牌

三村紀伊守親重者世主備之中州成輪城也水
野勝成君失業流落之際憑之教歲後親重值亂
拔城勝成君開運封參州荊屋城之太守之時憶
昔日憑托之恩而招其嫡親良任以家宰祿賜千
石親良勲功不少沒後其嫡親安繼受其祿奉仕
而沒矣其嫡親澄又受其祿忠勤未幾城至勝岑
君不幸早世家繼絕矣於此群臣同時離散矣而
後親澄守節齋居備之中國勇崎村以終焉累代
神主已雖分列于龍興祠堂今慮後來之煩多其
嫡流四靈合刻一墓因略記其由云

三村紀伊守親重

三村五郎兵衛親良

三村新兵衛親安

三村右近親澄

嘗享保八歲次癸卯秋九月

親安女武藏^城住三村親興專

親安孫京城住中山重政

謹立

右ノ條ヲホリツケタリ

六郡志よ云傍中松山の城三村右近伊豫寺

のありて守り多志家の臣志願河内を以て換地

もてうちこたさるけ時將軍義昭之信也此配
をうけ輝元を頼ておとしらるるを信也信分て
家親の嫡子信理亮之親のあゝ密使をとらて
大教を励ますゝふあひあひ信後信中て家
と云送らるゝ之親忽及心してゝは義昭を
討候也大威勢をこりて父乃うたさうきたと
退治せんと一族をうゝゝいりるふ三村孫兵
衛親本同嫡子孫也即親意同とせと父のあこ
ぬをうつゝよんを他乃力おかしんをう上者
家ハ毛利の厚恩候とらて我々をむ小津進う

今信長に志さうふハ人凡人の恭勤なりと再
三諫けせしと之親の進候とらぬを即ち親本
父子とうたんとし進よらつて親本父子と
もに信後勅のあちきと至義昭公の右の次才
候之上も又うり三系ハ川少子川隆系ハ討け
川ハ早速軍兵を率一之親を退治せしと親本
父子ハ忠孝として信中鳴鶴よてハお石をあ
てけり川三村紀伊守親成と号しと後天正の
頃ハ慶六辰生つ徳本中國海流のとき信中の
内あゝと云らぬのゝ聲とてうておとしけるう

放逸なるるに追出さる或時紀伊寺鷹野に
出らるるとき大乃男の御持本よて通るものあり
り川を只このにあつては水門六尺出づる
一として取立てるは是の系ハ水門を
降六尺出づる御持本よけて通るは
とありり水門の系ハ一尺出づるは
一とて通る御持本よけて通るは
をこのとけとて取立てるは
り一方ハ一尺出づるは
へり首打をうたひらるるとか

中國を奉祀よ妻一は由緒よとて宗係ハ三
村右近他州小宰人よて取立てるは
子石路ハ一とて

墳墓

出羽國山形城主寂上家士柴橋石見直利
水野家ハアツケラレシ人ナリ

弘宗寺

曹谿山臨濟宗開山靈江和尚京妙心寺末寺東
町ニアリ由緒略書ニハシメ妙政寺下松林中
ニアリシヲ水野内記勝直此所ニウツシ建ト

云松林中トイハ永徳寺也コノ下別見水野
家賢忠寺ノ外ニ別ニ香火院ヲ夕テントテ市
村綱木深津ノ岩山ノ下モトニテチソノ地ト
定メ開山ノ僧ニハ靈江ト云テ豊後ノ臼杵ヨ
リ呼ヨセテソノ地ヲミセシメラレシニ山下
ニツカキ谷川アレハトテ唐土曹溪六祖ノ事
ニヨリテ山跡ヲ曹溪寺号ヲ弘宗トアラカシ
メ名ツク程ナク島原陣イラキソノノ千勝成
勝俊勝貞三侯ツ、ヒテ卒去アリレエハ岩山
ノ経営ハヤミ吉津ノ齋光寺ト云ヲコトニウ

ツレテカノ新名ヲ用ヒタル即今ノ寺ナリコ
ニウツセシハ第四代勝種侯幼少ノ時ナリ
内記ハ日別侯ノ遺言ヲモツテ此寺ノ檀那ト
ナリ先シテ弘宗院ト号ス

位牌

廣世院殿前市令関叟全無大居士
市正忠胤トテ織田内府ノ婿ナリ
弘宗院殿了山是性大居士
内記勝種ハ日別侯ノ養子市正ノ子ニテ内
府ノ外孫ナリコノ外和泉守殿ヨリ五代五

座内記ノ室ソノ息女ト二座

附

宗休侯像賢 蠻江和尚

百年遺老四海一雄功成身退小圖画中明德不
孤千萬世朝々日向嶺東紅

歳旦 二代乾岩和尚

蠻江遺言三世
羅即小國村ヨリ也

記年六十一旬新慚愧老僧共世遷意足不求國
恩ク春未改觀寺門前

コレハ蠻江カ緒ヲツキ大利ヲ夕テヨト命
アリ有司モス、ノシカトモ時世ニ意ニカ

ナハナルヲアリシヤ肯セスソノ翌年ノ試
筆ニカキタル偈ナリ

永雲寺

值林山同泉同末福德町ニアリ棟札ニ云天正
中秀山和尚妙創于神邊黄葉山下寛永中宙堂
和尚ト攸福山新城云云

六郡志ニ第二世封山ノとき河州より淨圓と
いへる僧方きたるとと法園の傳説をいふた
免ふ回國を以寺ニ歸るして門をたて上よ獅
子とよきさいけ門移山徳寺に冠たりと云

松林寺

延壽山同宗弘宗寺末寺長者町ニアリ開山松
任和尚

龍淵寺

瑞雲山同宗妙心寺末寺西町ニアリ宗休侯ノ
時城ニ庵居セシ僧アリ照岩玄惠ト云コレニ
亦料米ヨホトツケテ開基セシノラレシカ今
大破ニ及フ

墳墓

酒井山城

妙政寺

越前一伯公ノ臣寛永十九年ニ卒スモト飛
彈ノ國ノ人水野象ノ預人ナリ
六郡志ヨ平生書をたしと記ぬよふふい
せしう字毛よふ記等好ぬまてほしうを
乃彼を咽よたきあみて自害とと云

長久山日蓮宗京都妙傳寺末寺吉津ニアリ
屋ヨリ随来ルモト東町寂圓寺ノ前ニアリ
ヲ上田玄蕃此所ニ移シ建ツ
墳墓

信解院殿理圓日證大居士

承應四年二月二十一日水野備前守勝貞造
立之

當城二代城主前四品水野美作守勝俊

殉死七人ノ塔二行ニ列ル三宅半助河上一

郎右衛門上田七兵衛田中十郎右衛門横山

惣右衛門馬場長右衛門西山半左衛門

題目堂

藤野素竹ト云モノ亡女ノ夕メニツツ玉林

庵ト云ソノ戒名ナリ藤野才次郎再建ノ記

アリ略ス

和漢三才圖會ニ妙正寺在福山ト云ハ此寺

ナルヤ

可貞孺人佐野氏墓誌

孺人諱留、姓佐野氏、既寡稱可貞、考諱宗閔、妣細

井氏、以元禄十六年癸未、生于野洲字津宮、從

侯家移備之福山、年已長、歸于吾仲父梅字先生

為室、子男六人、長曰世廉、次輝祖、次懷祖、次保富、

次二人、次季女一人、卒于家、年七十有四、安永五

年丙申十一月六日終、葬于城北妙正寺中云、

寛政六年甲寅二月

伊藤善韶撰

孫男弘亨建

妙法寺

本性山同京京妙顯寺末寺開山日兼法師幸町
ニアリ
六郎志子滋隈部長和彦人兄ハ妙愷弟ハ如
と云二人日像乃弟子とりの妙顯地法とりふ
古号と云いゆて寺とら一ハ水呑妙顯古
一ハけり開塔後野上よりうつしきたると
云

實相寺

法鏡山同京モト見照山ト云甲州久遠寺末寺
吉津ニアリハシノ尼日達ト云モノ開創ス後
ニ身延ノ日逢ト云モノ甲州見照山實相寺ト
云寺号ヲ持来テ任持スソノ間ノ名ハイカハ
アリシヤ法鏡寺宮ヨリ寄附ノモノアリトテ
今ノ山号ニアラタム上田玄蕃香火院ナリ

光政寺

樹榮山同京開山日鳳上人京都妙覺寺末寺寺
町ニアリ上田玄蕃ノ家末木村八太夫光政ト

イフモノ建立シ名ヲ寺跡トスモト三州川屋
ニテ一乗寺ト云シヨシ

通安寺

桃林山同泉山田村常國寺末寺開山日通上人
西町ニアリ縁起ニ常國寺日保上人祈禱ノ夕
ノニ登城スルニ神戸川漲リテ人馬通セス城
内ニモイカノアラントヲモヒシヲ上人時刺
ヲタカハスワタリ来ルソノ賞トテ除地ヲ給
ハシテ一寺ヲ建ルト云
賈六郡志ノ濱辺に即ち是の系とりたる人毛利

乃幕下にて高尾山田北城まじり宮系分我の
後日保上人の流石の多となりて流石の退去
先男子五人あり嫡子孫に及ぶ次男に孫無流
三男日保上人に男伴兵流又男小吾流といふ
日保上人の齡七十よりいひまき仕女北宮といや
免て朴安とありたぬ一庵と稱し教堂に妙典
と通し宅邊に松栢ありと桂妻ありとふとと
ちて来しと云流徒なりり川ハ月出ると云流
印法寺より訪て日通上人のまじりといふく上人
乃多きいりるも信心篤きくともか乃長流

の國を是訪てふ事ありけり記考より之を
へて去風つゝ老婦とてこいふ事とて若く
下をこれゆへ免今に免よ寺号山号と送る中
さん内達の州應と爲ふとありいて一宗の如
又終焉に急りやめんとて楓林山通也寺とな
川市校との曼多麗 年不圓頓寫を流りりり
りり美とふさうして並流乃流あうつりり
時小渡者八年なり夫々の旅と一人ふれおれ
一書しりるゝ元和五年の燈籠由公爲國ふ
川りたまいて記に流つとて免りつても五絶

とて日保ハ上田玄蕃と崇教とて常國寺よ院
恒を朴安老人類ふ所也了しいく長門の一族
あを對面せしむとありい爲國とつとる乃流
を猶公の流子とめさし流と然との上老
人の通稱を恒其せんとは爲國にるゝすれあ
しとありりとはは流るありとて日過上人を
り寺号山号をたまりていへて流物とて一
宇建立の大成の流い流一すつかりとてゆり
いそんととふを何方あても建立の功とあふ
は回車なるとて爲國とて先祖代々墳墓の地と

云此有日保常國寺乃恒持ありハ言と川て立
と之也命汝の地とそ一ノ系々然内何おもて
も寺地を所望ありまのそ一ノと恒々進る水之
老人大少後山して別今め地をとふしうけ者
寺を建立し之をく恒後し海ハ日香とりふ
を恒々し正胤山ハ全く朴安なりとりつとも
倍人と胤山ととりしうく初日香をむと
りつともそ乃功なりハ鼻祖日通上人二祖
日香大徳と稱す朴安日保親子ハハ家の地
りつ常國寺の末寺となりつるなり

齋木周真君墓銘

君諱文弼字周徳一字子鉉、稱專助、姓齋木氏、號
坦窩、考諱某妣姓三島氏、備福山鎮人、自幼好學
及長遊京師、師吾先人紹述先生、而學焉、業就還
郷、仕本鎮、為近侍之臣、歷仕三世、轉職增俸、遂至
百碩、享保元年丙申七月廿五日生、天明六年丙
午二月十二日罹病終、年七十有一矣、君為人温
厚和緩、有長者之風度、能文工詩、又善書、從學者
幾多、所著有燃柴録、坦窩集、配高橋氏男二人、曰
秀就、弟紀雄、弟族人門生、共經營喪事、葬于城西

桃林山通安寺先塋之次以學吾先人之故悼尔
銘具幽堂系以銘云
嗚呼君兮温潤之義君子比玉夫斯有
寛政紀元三月廿日
長正寺
高光山同京本國寺末寺吉津ニアリ日達ト云
住持ノトキ上田玄蕃コトナリウツス
最善寺
光耀山一向京東本願寺末寺寺町ニアリモト

西派ナリシカ近頃ノムヒテ東派トナリ縁起
山南村光照寺ノ條ニ出ス由緒書ニ聖徳太子
繪傳古法眼永信ト云モノ、筆水野家郎山ヨ
リ持表ラレシヨシニテ清光院榮光ヨリ此寺
ニ寄附セラルトミ古法眼ナラハ元信ナリ
ハシ永信ハ何人ナルヤ
光善寺
智恵光山同京山南村光照寺末寺寺町ニアリ
縁起前ニナリ
妙蓮寺

寶池山同泉東本願寺末寺西町ニアリ
六郡志云開山大貳上人猿成公の弟なり天徳
柔弱にして武門の志ありては流小別後あり
大て大蔵房と號し當るの開基とせしむるは流也
州志云のちの候の母妙喜尼乃高火院たり

寂圓寺

壽量山同泉西本願寺末寺開山連道元和年中
三刈岡崎ヨリウツス寺町ニアリ本尊ハ故ア
是リテ水野家ヨリ光明寺ノ佛ヲ夕マワル今ニ
イタリ光明寺ノ門徒此寺ノ本尊ニ正月鏡餅

ヲ供ス北ハツノ縁ナリト云

淨願寺

光嚴照山同泉同末寺町ニアリ開山了祐エレモ
上下同時ニ同處ヨリ來ル

道證寺

銀光山同泉同末寺町ニアリ開山空珍亦三河

五ヨリ來ル

法真寺

池田山同泉三次正林坊末寺吉津町ニアリ山

計手村池田ト云處ヨリウツス

信行寺

清水山同泉光照寺末寺三吉ニアリ山田村大
留ト云處ヨリ引野ニウツシ又コ、ニ表ル

正蓮寺

明光山同泉鞞明圓寺末寺道三町ノ南ニアリ

光照寺

山南村光照寺ヨリ建ツ同所ニアリ

光明寺

海雲山同泉西本願寺末寺開基教圓上人三吉
ニアリ津ノ下ヨリウツル傳云大門村城主藤

間兵部光重ハ藤原奘名ノ遠裔伊豫河野一族

也寛正年中備中笠岡城主陶山國時夜討シテ

攻メトス光重ノカレテ舟ニノリシヲ陶山家

表樋口左近算要人兩人追来リテウキトル藤

間嫡子六八郎光明ハ山口隼入室野十郎左衛

門ヲ俱シテニケ出マ夕父カ死ヲ聞テ立歸リ

シカ勢ナケレハセンスヘナク本願寺ヲ夕ノ

ミテ出家ス山口室野ニモヲノカ名ヲワカチ

アタエテ剃髮セシメ明正光圓トヨフ光明ヲ

寺号トシテ津之下村月濱トイフ所ニテ一字

ナタツ山口ハソノ地ノ産ナレハユレモ同所
ニ寺ヲタテ、光圓ト号シ室野ハ御領村ノ産
ナレハソコニ寺ヲタテ、明正ト云ミ十光明
正寺ノ末寺ナリ光明寺ハ水野家ノトキ今ノ處
ニウツリ第九世閑靈ト云代ニ東派トナリ十
光二世順哲代又西派ニ歸ルニ末寺ハヤハリ東
派ナリタヒテ處ト歸ラス離末トナルト云
光今按ニユノ縁起ニヨレハ閑山ハ光明十光
正ノ末寺ナリハ寺ノウツセルトキノ主
僧ナリヤ伊豫ノ河野ハ越智氏也藤原姓ニア

和漢三才圖會ニ所載ノ寺四ヶ寺イツレノ所
ニアリシヤ
寶海寺 在福山禪宗
如來寺 在福山淨土宗
妙正寺 在福山法華宗
不動寺 在福山真言宗本尊不動明王福島正
則建之
以下詩文ノ府下ニ関ルモノヲ附録ス
享保己亥之冬、朝鮮使客過備之福山、面第英

求請先人遺書

東涯文集

萬里星輶自三韓隣好百年盟不寒候人前期飾亭
館縣次續食禮教寬吾生三逢過都下冠裳濟々慕
諸夏海青臯比克庭實駸馬豁臯真泛駕五十三程
趣閑東彩旗鴉々捲秋風文人才子爭投贊心照神
交尺楮中復跼還日迨一陽浪華津口已聞洋有身
抽毫官備藩邂逅記室成夢良先人風聲播殊域慙
勲脩刺訪潛德遺書一帙代縞紵夙志喜傳箕子國
亦擴所安藤丈自福山見寄近作三首皆可觀也
次其一律以謝

百年茅社山陽路縹緲烟霞擁海城嘗為輿論傳美
譽忽於簡素見才英花飛亭榭饒春色梅熟琴書伴
雨聲臭味相投千里外依々猶有故人情

寄仲弟長英在備之福山

異鄉山水轉堪憐落日蒼波思悄然四海交遊皆縫
掖羊生事業附簡編裁書先寫加餐字屈指頻推離
別年應念北堂垂鶴髮白雲飛處九重天

仲弟長英自備州寄新年作次韻却寄

律回暘谷歲華新又使烟花隨處春蹤迹誰言湖海
士榮枯類閱市朝人衰年聊賴書遮眼窮巷不妨酒

入唇多謝好風傳好信披書燈下岸烏巾
仲弟長英自備歸省在京月夜寄贈
分袂于今十七年相逢應駭髮皤然鄉隣桃李換新
全家世詩書守斷編鴻雁影邊秋信早柴荆枝上月
鈎懸誰將衣繡誇榮耀慈母抱孫娛目前
其任世德年甫十歲賦元日詩其父自福山寄送
因次韻以最之
嘗修初度慶已及十回春偏喜方年富須知要日新
仲弟長英筮仕始赴福山春未屨有書問
江閔風塵未期晴黃蕨山中信馬行莫厭崎嶇千里

遠丈夫生有四方情

輦下新年十日晴遙思水國恣吟行書未先認平安
字好覈加餐慰遠情

福山山本文和拙詩見寄再酬謝之

雙劍十年依海城清時誰請建章纆登高能賦君家
車未賞京山處々櫻

次齋子鉉韻

以下襄海詩集

方外論交與共無攀世緣才因重席見心向張燈傳
萍水歡竒遇漂流嗟各天更闌猶未寐雙目似青蓮

次鈴玄泉韻

風未詞客靡秋暑入宵微桂魄輪全滿井梧葉已稀
鐘聲侵夜至鋸屑趁談飛清興俱高卧主人經笥肥
次天子育韻

交驩總十日白社更相親囊裡曾無物曲中能動塵

霜飛山色老雲散月華新座客豈堪當高才絕匹儂
福山集次韻德彌

陸沈知幾歲避世在塵寰犯座見交態傳心不等閑

葉飄多作雨月落半吟山共耽方外興曉鐘猶未還

再未年日莫謝尔自逢迎霜下無人跡林空欠雨聲

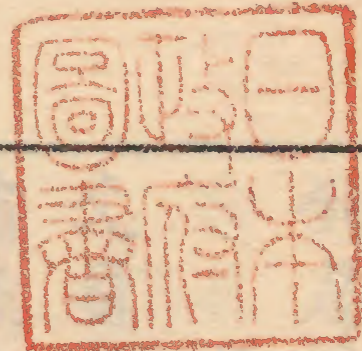
次韻齋子鉉

詩書於古業膠漆重前盟賦就知難和一時口善鳴

次韻福山鈴玄泉席上見貽

昆耶居士室中深此地風塵不可侵萬里浮雲看變
態千竿脩竹了禪心爾元論難許玄度吾豈逍遙支道
林何道知音猶未遇風前試拂沒絃琴





本府屬以古蹟甚多...
 其類如世皇...
 空...
 精善...



